

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O372200501		
法人名	社会福祉法人 志和大樹会		
事業所名	グループホームゆいっこ		
所在地	〒028-3453 岩手県紫波郡紫波町土館字関沢24番地1		
自己評価作成日	平成21年8月7日	評価結果市町村受理日	平成21年11月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372200501&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「明るく元気で」「安心して楽しく暮らせる」生活を基本とした支援に心がけている。
 ・様々の外部研修に積極的に参加し交流する機会をつくるとともに、参加した職員は必ず勉強会等で報告し「学んだことを伝える」訓練をしながら、職員の知識・技術の向上に努めている。
 ・また、職員は、日常ケアの実践・評価を見極めながら県立大学やグループホーム協会大会などで実践報告しレベルアップにつなげている。
 ・「認知症なんでも相談所」を開設し、地域の方々の困りごとの相談を受け付けたり、地域に出向いて認知症の講演をして地域に貢献している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念でもあるすべての利用者に「役割」をもってもらうことを重視し、そのための場面づくりが、職員と利用者が自然なかたちで行われている。「あなたが必要なんですよ」と感じてもらう機会を、一人ひとりの得意分野の能力を見つけ役割をもってもらい、その時「あなたのお陰で、」と「ありがとう」感謝の言葉を忘れないようにし、喜びのある環境が利用者の能力を呼び戻し「生きがいがいい」を感じさせるよう対応している。認知症の症状も落ち着いてきて身体機能も低下することなく、家族からも信頼があり、事業所の暖かなアットホームな雰囲気が利用者の笑顔から感じ取れる。なお、行政と連携した「認知症なんでも相談所」を開設し困りごと相談解決等の地域貢献に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 21 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆいっこ独自の「お互い様」「役割のある生活」を理念とし、毎日入居者の方が「役割のある生活」ができる様申し送りで共有し行っている	一つの屋根の下で利用者と職員が生活する中で、利用者（「お互い」）の持味（「役割」）をうまく活かす場面づくりが、日頃の話し合いから醸し出され実践されている。	理念の実践化は、日頃のコミュニケーションの成果が活かされており、今後も利用者を含めた全員の「お互い様」の共有に期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の行事に参加したり、広報を小学校、公民館、隣組、警察署に配付し、日々の生活を紹介している。地域のスーパーへ買物に行き、なじみの関係作りを行っている	「お茶っ飲む会」を通じて「つきあい」を深めるなど、地域との交流や行事への参加を積極的に行っているほか、地域のスーパーに出かけ日常的な場面で地域の方々と馴染みを深めている。	「1軒の家(事業所)」として、また地域住民の一員として交流を深めているが、引き続きの取り組みと、これが「当たり前」になることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域の公民館等で、認知症の講演をしている。夕涼み会で日常の生活をスライドにして見ていただいたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議内容は全職員も確認し、地区行事等につなげている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議に地元の派出所や消防関係者の出席を要請し見守りや安全・安心の支援等の意見交換をしているほか、運営推進会議等の視察研修を行い運営のあり方等の改善工夫に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月相談員が来所しケアの現状を確認し、行政に報告している	「サービス事業所懇談会」を通じて情報交換するほか、地域の高齢者支援ネットワークとして「認知症なんでも相談所」を開設し、地域の方々の困りごと相談を受け、行政へ繋げる支援をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が行われている。報告書を回覧し、職員全員で確認している。玄関には鍵をかけておらず、散歩に行く入居者には声をかけ見守りしている	身体を拘束する弊害を全職員が承知しており、また一人ひとりの状態を把握し、利用者とい関係を築き、鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。なお、近所の人たちにも理解をもとめ、声かけしてもらっている関係を築いてる。	利用者と職員との良好な関係は、訪問当日の利用者の表情や笑顔から感じることができたが、今後も引き続き良好な関係の継続支援に期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけではなく、無意識に精神的な虐待をしないよう言葉遣いを職員同士お互いに注意するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会がある。報告書を回覧している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からお話を伺い、入居後の対応に活かしている。面会の際にもお話を伺ったりしている。退所後の生活の相談も受けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症なんでも相談所になっており、看板も出している。家族会で意見交換や日常の様子を職員から報告している	家族の来訪時や様々の行事の開催時を利用し、家族の意見や要望等を聞くようにしており、また、話された内容はセンター方式のシートにその都度記入しケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議や勉強会、主任会議の議題提出の際等でも、職員の意見を取り上げられる機会は普段からも多くあるが、職員からの意見はあまり出てこない	日常の勉強会等を通じて職員の意見等を聞くよう心がけているが、職員異動が多かったためか、今回の自己評価では、遠慮気味でチームワーク不足に気づかされ今後の課題としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に度々出していただく等、勉強の場を広げていただいている。所長は普段や行事等でも現場に顔を出され、入居者と職員の様子を見ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回勉強会を開催しているし、日々の申し送りでもケアのアドバイスがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修には管理者のみ参加せず、職員も公平に参加し、参加した職員は部署会議で報告している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と面会し、見学に来られた方とも話をしているし、担当職員だけではなく現場の職員も同席し、ご本人の状態把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族に今までの生活の様子、経緯や、その中で大変だった事、困っている事、また今後の不安等、話を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族から、今現在の生活の中で困っている事が何かを聞き出している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ゆいっこ＝お互い様」という理念のもと、日々の生活(会話や役割)を通じて入居者の皆様教えてもらう事、助けてもらう場面を作るようにしている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月、書面で本人の生活の様子を伝えているし、ケアプランの内容を協力していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院や床屋に通っている方もいるし、買物は馴染みの関係が出来やすい地元のお店に行っており、お店の人に声をかけられることがある。自宅周辺をドライブし、見ていただいている	知人や兄弟、親戚の方が来訪されおしゃべりしたりするほか、馴染みの理・美容院に行ったり、お墓参りを利用したふるさと訪問など、馴染みの所に行き来する支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者の関わりを把握し一緒にいる時間を作るように、また人間同士の付き合いではトラブルがあって当然と考え、トラブルになっても危険がない限り職員はすぐに間に入らず、入居者同士の成り行きを見守る		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、転居先に入居者と遊びに行ったり、ご家族と連絡を取り合ったりして、その人の現状を聞いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子観察とセンター方式のケアプランに取り組んでいるが、職員の視点にながちなので、日々の生活の中から本人の思いを聞くように努めている	利用者の思いや希望は、日々の言動や表情などから把握し、それをアセスメントシートに記入し職員間で内容を共有して日々のケアに活かすよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会に来られたご家族や知人の方達に生活歴を聞いたり、入居所の方の言動で気になる事があれば家族に確認したりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動、表情等を見て、その都度、その人に合わせた力の発揮の場面を作るように働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの内容についてご家族に協力を求めたり、モニタリングやカンファレンスで職員全員の意見を元に考えている。カンファレンスやモニタリング以外でも月間目標や日々の申し送りでケアプランの意識の徹底が必要	日々の小さな気づきや家族の意見等を「何でもノート」にメモし、カンファレンスや申し送り時に話し合うほか、介護計画に活かしている。なお、特徴として「月間目標」を決め、例えば8月の目標は暑さ対策で脱水、衣類調節、水分補給に注意している。	介護計画は、利用者及び家族の希望を踏まえて作成されてるが、今後も利用者が生き生きとした日々を送れるよう様々な配慮に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子の観察力をつけなければいけないのが課題だと考える。現在は個別記録等の情報を活かしてモニタリング等行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の出来ない家族の代わりに通院の付き添いをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の移動図書館に月に1回来ていただいたり、地域の公民館のこけ玉教室や幼児広場に誘っていただいている。また傾聴ボランティアの利用も検討している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望で、入居者のかかりつけ医に通っている人もいる。嘱託医が週1回往診に来ていただき、関係は密である	町内のかかりつけ医受診は職員対応とし、町外は家族対応としている。通院結果を家族へ報告するほか、夜勤者にも知らせている。なお、週1回嘱託医の往診のほか、法人の看護師も来訪し健康状況に配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に特変がある場合は法人の看護師にその都度報告し、対応、指示していただく。また、毎週の訪問時にも入居者の体調報告をする		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との連携は構築できているとは言えない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とよく話をし、本人にとって何が一番良いのかを決めている。そのことについては同意書を頂き、ケース記録や面会時に状況報告をしている	看取り介護の同意をいただいた家族とは共有ができており、職員も受入れ態勢を整えている。また、これまでの緩和ケアの体験を踏まえ勉強会も行っており、今後もホームとして最大限の対応に努めたいとしている。	利用者や家族から終末期も「ここで」との要望があり、重度化や終末期の対応に関する継続的な勉強会を持たれることを、さらに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急訓練の研修に参加しているし、けが等の対応マニュアルや、個別の特変時のマニュアル等も作成し、いつも見えるところに置いて日中、夜間の対応ができるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二人勤務での避難訓練を行ったり、地域の消防団の方に来ていただき、夜間想定での避難訓練も行っている	事業所独自の避難訓練の実施を重ねる中で避難時間が短縮されている。法人との合同訓練は年2回地域の消防協力隊の協力を得て、夜間想定での訓練を行っており、地域との協力体制を築いてる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護やプライドを傷つけないため、声がけをしないといけない時は一対一の関わりをする等、気をつけている	入浴、排泄、トイレ誘導や夜間時の対応など、利用者の誇りやプライドを損ねないよう配慮するほか、利用者ごとの特徴や留意すべき内容を職員間で情報共有し気をつけてる。個人情報には書庫に保管管理し徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択の場面を作るように、職員はできるだけ見守りを行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望や落ち着いた雰囲気の時等、入居者の当日の訴えや状況によって、臨機応変にその時の入居者に合った過ごし方が出来るように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を着替える時は、できるだけ本人にどの服が良いか聞くようにしている。服の購入希望がある時は個別対応等で、買い物に出かけられるようにする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の切り方や味付け、盛り付け、コンロの前に立ち、炒め方、焼き方等、準備から食後の茶碗洗い、拭き、米磨ぎ等、女性入居者は自ら台所に来てやっている	食材購入から調理加工、後片付けまで、利用者の持味「役割」を活かしている。訪問当日も自分の役割として自然に台所に立ち、おしゃべりしながら茶碗洗いをするなど、ゆいっこのお互い様の理念が活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、不足しないように支援している。本人の好きな物を調べ、補食として用いる。入居者が食べやすい軟らかさになるようにしている。入居者の好むメニューや味付けができるようにしたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きが徹底できていないので、職員で声をかけ合って取り組みたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関してはマニュアルを作っており、ブライドが傷つかない様な声がけをする。排泄チェック表と職員同士の声がけで、トイレ誘導を行う	排泄チェック表を活用するなど、利用者の様子から察知し、さりげなく誘導し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックに努め、水分摂取量の確認や乳製品を摂る、身体を動かすようにする等、話し合い、取り組むようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の訴え、希望にできるだけ副えるようにしているし、夜に入りたい人、早い時間に入ってしまいたい人等、本人に確認している。	利用者の希望や体調に合わせて、夕方5時頃から入浴が始まるが、就寝近い8時頃の入浴など、個々に応じた支援をしている。時には職員も一緒に入り安心感を持ってもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後すぐに休まれる方やテレビを見て遅めに休む人、就寝前に入浴したいという人等、本人の希望に副う様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を服用している方の服薬管理表を作ってから、薬に対する意識が強くなったと思います。体調の変化がある時は、Dr.とNs.に相談し、薬の新たな処方や服薬している薬を減らしていただいたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「役割のある生活」という理念のもと、家事全般、特技をする事で、自信を持って楽しく生活するように努めているし、カラオケ、ドライブ、体操等、入居者の状況を見て、気分転換を図る		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者からの希望もあり、毎週のようにドライブに出かけ、気分転換をしている。また花見や温泉等、遠出をしたり、外食等も行う。ご家族の協力のもと、古里訪問にも行った事がある	利用者の希望で月1回のランチバイキングや産直めぐり、散歩や買い物など、利用者の体調や天候などを考慮しながら、戸外に出かける工夫をしている。また「本家」と呼ぶ隣接の特養ホームに行き、仏壇を拝んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の買物や個別対応や行事で出かけた時も、財布を持っていたき、支払いをしていただけるよう見守り、必要な時に手伝えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙に返事を出したり、電話をしたいという方には、できるだけ最初からかけられるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の間接照明で落ち着ける雰囲気になる。食堂や和室には生活感や季節感を取り入れられる様な飾りや花等、工夫していきたい	食堂や和室は明るく、季節の花や写真など飾られ、台所は広く、家庭的雰囲気が感じられ安心して過ごせる場所となっている。	訪問当日は、テレビの高校野球観戦で、花巻東の健闘で元気をもらったとの話題で盛り上がるなど、今後も利用者にとって居心地よく過ごせるよう工夫されることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々や玄関(内、外)、テラス等に長椅子を設置し、少人数での話や日向ぼっこ等、落ち着けるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた鏡台や仏像を持って来られた方もいる。居室にご家族や本人の写真飾っている居室もある。物が多く混乱するようであれば整理したり、落ち着ける空間になるよう工夫する。	居室は馴染みの整理タンスなどが置かれ、整頓され、掃除もよくされ落ち着ける空間となっている。また使い慣れた鏡台や時計やカレンダーなどが写真とともに置かれ思い思いに住まいをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開所当時からわかりにくい看板を取り替えたり、混乱しやすい目印を外したり等、入居者の状況に合わせて徐々に変えている		